

■教育学科（初等教育専攻）カリキュラムマップ

教育学科ディプロマポリシー（学位授与方針）

教育学科では、以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

- （１） 確実な知識・理解・技能を有し、広い視野を持ち高度な専門性を備え、実践的な指導力を身に付けた学生
- ① 乳幼児・児童・生徒理解：乳幼児・児童・生徒一人一人の発達の特徴を理解し、適切に支援できる知識と能力を備えている。
  - ② 確実な知識・理解・技能：教育学の基礎的な知識を有し、「考える楽しさ」「学ぶ喜び」を育てる専門職として、学んだ知識・技能を高め続けようとする研究心や意欲を備えている。
  - ③ 実践的な指導力：学んだ諸能力を保育・教育現場で効果的かつ柔軟に発揮できる実践的な指導力を備えている。
  - ④ 課題解決能力：教育活動などにおける課題を把握し、その課題解決に必要な情報の収集・分析・整理をし、その課題の解決ができる。
  - ⑤ ICT活用能力：情報コミュニケーション技術などを用い、情報収集・分析・プレゼンテーションを適切に行うことができる。
- （２） 教育に対する強い使命感と責任感をもち、豊かな人間性を備えた学生
- ⑥ 教育に対する使命感と責任感、愛情：教育に対する強い使命感と責任感をもち、愛情を持って入場時・児童・生徒に接することができる。
  - ⑦ 健康な心身と豊かな人間性：心身の健康の大切さを理解し、豊かな人間性に基づいた教育活動を展開できる。
  - ⑧ 自らの実践に対する省察：自らの「学び」を土台として、自ら考えたことや実践したことについて省察し、新たな課題に立ち向かう柔軟さや粘り強さを備えている。
  - ⑨ コミュニケーション能力、チームワーク：連携、協働の大切さを理解し、乳幼児・児童・生徒ならびに、地域住民や保護者、教職員と連携し、自分と異なる考えをもつ人とも互いに尊重しつつ、教育課題などにチームとして取り組むことができる。
  - ⑩ 道徳性と倫理観、社会性：倫理、道徳に関する知識と技能を踏まえ、自らの良心や社会の規範やルールに従って行動し、人々の幸せや地域・社会の発展のために貢献できる。

科目分類・科目名称	主 題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要 ○重要 △望ましい)											
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨			
専 門 基 礎 科 目	教育学概論A	教育を通して人間と社会について究明する。	1. 教育についての関心を深め、今後の学修のための基礎知識を理解し、説明できる。 2. 教育の理念や教育に関する歴史および教育理論に関わる内容について理解し、説明できる。 3. 生涯学習の視点からの教育改革の動向や学校教育を取り巻く状況の変化、社会的な要請等について理解し、説明できる。	○	△	△				○				△
	教育社会学概論A	教育の社会的性格、文化的再生産と学校教育、学校の社会的機能について学び、社会との関係において教育をとらえ直す視点と方法を学ぶ。	社会問題として教育をとらえる方法、文化的再生産の過程で学校が果たしている役割を分析する方法、学校が社会の中で果たしている役割・機能について理解し、説明できる。				△	△				△	○	
	教育心理学概論A	1. 教育と発達の関係の基礎的理解 2. 発達をふまえた学習支援・指導の基礎的理解	1. 教育心理学が実験室的な心理学を教育に応用するという視点だけでなく、教育の中で生じる諸問題そのものを研究対象として、その解決に役立とうとしている心理学であるということが説明できる 2. 教育における発達理解の意義を土台として、発達の外的及び内的要因の相互作用や代表的な発達理論に基づいて自分なりの考えを持ち、他者と意見を交換することができる 3. 「教えること」「学ぶこと」の意味及び両者の関連性について、それらの代表的理論の基礎的理解を土台に、主体的な学習活動やそれを支える指導のあり方・動機付け・集団づくり・教育・学習評価について、自分なりの考えを持ち、他者と意見を交換することができる	△	△					○	△		△	
	教職論A	教職とは何か。教師の果たす役割や使命について考える。	教職の意義・資質能力・サービス・学校教育の動向などについて学び、それらについて自分のことばで明確に説明することができる。	○	◎					○				△
	特別支援教育の基礎	特別支援教育の基本的な理念、障がい種に応じた指導内容・方法及び合理的配慮	1.特別支援教育の理念について説明することができる。 2.特別な支援を必要とする子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うために、様々な障がいの状態について説明することができる。 3.合理的配慮、指導・支援の在り方によって、幼児児童生徒の活動や参加が可能となる(障がいの状態	○		○				○				△

			を軽くすることができる)ことについて事例をあげながら説明することができる。																	
専 門 基 幹 科 目 A 群	幼児理解と教育相談	幼児の発達の・行動的諸特性と適応上の問題、行動観察法、保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解の意義を理解している。</li> <li>・幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解している。</li> <li>・幼児理解を深めるための教師の基本的な態度を理解している。</li> <li>・観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。</li> <li>・個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。</li> <li>・幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解することができる。</li> <li>・保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</li> </ul>	◎		○	△		○	○								△		
	教育方法論(情報機器及び驚異剤の活用を含む) A	教育方法論の基礎的な知識・技能を修得する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の基礎理論と実践を理解し、説明することができる</li> <li>2. 主体的・対話的で深い学びの実現方法について、説明することができる</li> <li>3. 学級、児童、教員、教室、教材など学びを構成する基本的な要件を理解し、説明できる</li> <li>4. 学習評価の基礎的な考え方を理解し、説明することができる</li> <li>5. 話法、板書等、授業・保育を行うでの基礎的な技術を説明することができる</li> <li>6. 基礎的な学習指導理論を踏まえ学習指導案を作成することができる</li> <li>7. 情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる</li> <li>8. 情報活用能力(情報モラルを含む)について理解し、説明することができる</li> </ol>	△	△	○	○	◎												
	教育相談の理論と方法A	「小学校における教育相談の理論と方法の実際を学ぶ」	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小学校の教育現場の状況と課題を把握することができる。</li> <li>②テキストを用いた「反転授業」により、小学校教員に求められる教育相談の理論と方法を具体的に身につけることができる。</li> <li>③将来小学校の教育現場において、どのように教育相談を行うかを提示された論題に沿って、論述することができる。</li> </ol>	△		○		○	△									△	△	
	道徳の指導法A	学校における道徳の指導法とその実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における道徳の目標・内容を理解する。</li> <li>・道徳の特性を踏まえた指導方法を知り、実践につないでいくことができる。</li> <li>・道徳の学習指導案を作成できる</li> </ul>	△		◎		○	△										◎	
	特別活動の指導法A	特別活動の役割と意義とは何か	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小学校特別活動の内容と指導法の概要を説明できる。</li> <li>②学級活動の指導案や学校行事実施計画案を作成することができる。</li> <li>③学級集団づくりの具体的な指導法を知り、どのように行っていくべきかを考えることができる。</li> </ol>	△	△	◎		△											△	
	総合的な学習の時間の指導法A	総合的な学習の時間の指導法とその実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科として新たに設定された双方向的な学習の時間の目標・内容を理解し、効果的な指導法について論述することができる。</li> </ul>		○	◎	○	○												
	生徒指導・進路指導論A	生徒指導の進め方を知る	小学校における生徒指導の内容を理解し、事例を通して具体的に対処することができるようにする。	○		○		△	△										△	△
	教職実践演習	小学校教員としての資質の確認を行い、教育現場での実践につなげることができるようにする。	これまでの教職に関する様々な学びが、教員としての資質能力として有機的に統合・形成され、実際の現場等で適用できる。			◎	◎	△	△	○	△								△	△
	専 保 育 内 容 総 論	保育の全体的構造、子ども理解に基づ	① 保育の全体的な構造を理解し、説明できる。																	

門 基 幹 科 目  B 群		く保育について、保育所保育指針・幼稚園教育要領などにに基づき理解する	② 子どもの理解とはどのようなことかについての仮説を立てる姿勢について考え、子ども理解のための観点をもつことができる。 ③ 多様な保育展開とその内容について、具体的実践につなげて説明できる。	◎		○			△		△	△
	国語科概論（書写を含む）	小学校国語科の目標と指導内容の理解	1 小学校国語科の目標及び内容構成について説明することができる。 2 国語科教育の重要性や必要性について、自分の考えを述べることができる。 3 国語科教育の実践につながる課題や手掛かりをつかむことができる。		○	○		△				
	社会科概論	「社会科誕生の経緯, 社会科の目標について知る」	将来社会科授業を行うための基本的な考え方を学ぶことができる。 ①社会科誕生の経緯と社会科の目標を理解することができる。 ②簡単な授業の構想を行い、定められた時間内に発表することができる。 ③社会科に対して関心をもち、将来小学校教員として児童に教えることを自覚することができる。		○	○		△				
	算数概論	算数・数学の理解と実践	算数, 数学の基礎的内容が理解でき, 課題を解決できる。		○	○		△				
	理科概論	小学校理科学習の基礎的知識の習得	・小学校学習指導要領理科の内容を踏まえ, 講義, 観察, 実験を通して自然科学の基礎的知識を獲得する。 ・小学校理科における観察, 実験の基礎的知識, 安全指導に関する知識を獲得する。		○	○		△				
	初等教育課程の意義と編成	教育課程のイメージを豊かにする。	(1)教育課程とは何かという問いを多様な観点から考え、教育課程の基本的な考え方を理解することができる。 (2)教育課程の編成・実施・評価が実際にどのように行われているかを知り、どのように行っていくべきかを考えることができる。 (3)小グループやクラス全体での意見交換で他者の意見に耳を傾け、自分の考えを述べることができる。	○				△		○	△	
	国語科の指導法	主体的・対話的に学ぶ言語活動を通じた国語科授業づくりの方法	1 小学校学習指導要領(国語)の目標及び内容を踏まえ, 授業づくりの基本的枠組を説明できる。 2 国語科学習指導案を作成し, 模擬授業を行うことができる。		○	◎		△				
	社会科の指導法	「小学校社会科授業づくりの基本を学ぶ」	講義の目標: 学習指導案略案の書き方が分かり、模擬授業を実施できる。 ①【知識・技能】社会科年間指導計画の立て方・教科書の内容・学習指導案(略案)の書き方等を理解するとともに、授業構成に必要な様々な情報を効果的に調べ、学習指導案としてまとめる技能を身に付けるようにする。 ②【思考力・判断力・表現力】社会的事象の意味を考察し、授業づくりに必要な事柄について適切に判断し、授業(10分間)として実施することができる。 ③【主体的に学習に取り組む態度】社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に入れて学び、主体的に授業づくりや授業の振り返りに取り組み、学びを深めることができる。 ④ルーブリックを用いて自己の学びの成長を確認することができる。		○	◎		△				
算数科の指導法	算数・数学を考えることの楽しさ・学	(1) 数学的活動を通して、算数数学を考えること										

	ぶことよさや面白さを実感できるような指導方法	の楽しさ・算数数学のよさやおもしろさを実感できるような指導の在り方を学ぶ。 (2) 算数・数学科教育の目的と歴史について理解する。 (3) 算数・数学科のそれぞれの領域ごとの理論と実際の指導の在り方を理解する。	○	◎	△						
理科の指導法	小学校理科授業についての具体的な学習の展開と実験・観察	様々な単元の学習のねらいに即した授業展開と実験を理解し、授業を創ることができるようにする。									
生活科の指導法	生活科の授業をつくる I	①生活科の学習を構成する要素（子ども理解、支援、年間指導計画、単元構成、環境構成、指導方法、評価）について説明できる。 ②生活科の学習指導案を作成することができる。 ③作成した学習指導案を基に模擬授業を行い指導の在り方について討議できる。	○	◎	△						
家庭科の指導法	よりよい生活を求め創意工夫する児童を育てる授業づくり	①指導要領を読んで、指導内容と評価規準について述べるができる。 ②児童の意欲・関心を高める学習指導方法を考え、模擬授業を実践することができる。 ③授業指導方法の問題点や改善策について、自らの考えを述べるができる。	○	◎	△						
音楽科の指導法	楽しく、確実な学びのある音楽の授業を展開するために	・音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材24曲を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につく。【知識・技能】 ・音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や模擬授業として実施することができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、主体的に歌唱指導および模擬授業に参加することができる。【学びに向かう力・人間性等】	○	◎	△						
図画工作科の指導法	美術全般の理解、造形美術（図画工作）の指導力の向上	図画工作科の各領域（絵画、彫塑立体・空間構成、デザイン、工芸、写真・映像、アニメ等）のそれぞれを理解している。 美術（図画工作科）の指導法が身につく、指導技術の向上を図ることができる。	○	◎	△						
体育科の指導法	小学校体育指導の理論と実際	<体育科の目標及び内容について> 1.小学校学習指導要領体育編における体育科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2.各運動領域の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3.体育科の学習評価の考え方について理解している。 4.体育科と背景となる学問との関連を理解し、教材研究に活用することができる。 <体育科の指導方法と授業設計について> 1.子どもの認識や思考・運動経験や体力等の実態を視野に入れた授業設計を行う重要性を理解している。 2.体育科の授業における情報機器や教材・教具の効果的な活用法を理解し、授業設計に生かすことができる。 3.体育科の学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4.模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	○	◎	△						
国語科教材研究	国語科〔思考力、判断力、表現力等	1 領域等で押さえるべき指導事項や学習内容と、									

		] 3領域及び〔知識及び技能〕指導のための教材研究	具体的な教材例の位置付けを指摘できる。 2 学んだ具体的な教材の見方や生かし方のポイントを生かそうと配慮することができる。 3 自分なりに授業づくりへの手掛かりを見つけることができる。		○	○		△				
	算数教科教材研究	算数・数学を考えることの楽しさを実感できるような教材の分析	(1) 算数数学の領域ごとの系統性について理解する。 (2) 小中高等学校の教材の関連性について理解する。 (3) 指導と評価の一体化について、具体的な問題を通して理解する。		○	○		△				
専門 基幹 科目 D 群	特別支援教育総論	日本の特別支援教育の制度と指導法	①特別支援学校の種類とそこで行われている指導について説明することができる。 ②特別支援学級の種類とそこで行われている指導について説明することができる。 ③通級による指導の種類とそこで行われている指導について説明することができる。 ④インクルーシブ教育システムの考え方について説明することができる。 ⑤特別支援学校学習指導要領の構成を説明することができる。 ⑥点字と指文字を読み、表現することができる。	△		○		△	△			△
	知的障害者の心理・生理・病理	知的障害児者に関する心理・生理・病理的諸特性の理解と支援	・知的障害者の生理・病理について説明できる。 ・知的障害を伴う発達病理としての自閉症やダウン症について説明できる。 ・知的障害をもつ幼児、児童又は生徒の諸行動（特に学習行動）について、そのメカニズムと対応を心理学的な視点から説明できる。 ・知的障害をもつ幼児、児童又は生徒を取り巻く地域社会や家族が抱える諸問題について説明できる。 ・知的障害の定義や原因について生物・社会・心理的側面から理解し、必要な教育的支援について説明することができる。	△		○		△	△			
	肢体不自由者の心理・生理・病理	肢体不自由の原因となる生理と病理、肢体不自由者の心理と状態の理解	1. 胎児期からの正常発達を理解し、説明することができる。 2. 神経ならびに筋・骨格系の生理的機能、役割を理解し説明することができる。 3. 脳性麻痺、重症心身障害児、デュシャンヌ型筋ジストロフィー、二分脊椎の病態・障害像を説明することができる。 4. 身体の発達にともなう病態の変化について説明することができる。 5. 障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境と関連について説明することができる。 1. 肢体不自由者の認知やパーソナリティの特徴について説明することができる。 2. 脳性麻痺者の身体機能の特徴とその原因について説明することができる。 3. 肢体不自由者のアセスメントに有効な心理テストの種類とその活用方法について説明することができる。	△		○		△	△			
	病弱者の心理・生理・病理	病弱者の疾患と心理・教育課題の理解	①病弱教育の対象となる児童生徒の心理的課題について説明できる。②病弱児への教育支援における基本的視点や配慮事項について指摘できる。③病弱教育の対象となる主要な疾患について説明できる。④教育実践における病弱者への支援や配慮すべき事項について指摘できる。	△		○		△	△			
	聴覚障害者の心理	聴覚障害者の心理	1, 難聴の疑似体験などを通して、コミュニケーション									

		<p>音障害（聞こえの障害）の状態を理解する。</p> <p>2, 聴覚障害者がうける誤解について、事例を上げながら説明することができるようになる。</p> <p>3, 手話、人工内耳の普及に伴う、多様な考え方について事例をあげながら説明することができるようになる。</p>	△		○		△	△				
聴覚障害者の生理・病理	聴覚障害の生理・病理についての基礎的事項を理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「音」の物理的特性について説明できる。</li> <li>・聴覚器官の構造・機能・障害について理解し、説明できる。</li> <li>・脳における聴覚認知の仕組みを説明できる。</li> <li>・基本的な聴力検査の方法を知り、検査結果（オーディオグラム）から情報を得ることができる。</li> <li>・補聴器の種類や特性について説明できる。</li> <li>・人工内耳の特性やリハビリについて説明できる。</li> </ul>	△		○		△	△				
知的障害者教育論	知的障害教育の理解	<p>1 知的障害児教育の歴史や障害特性について理解し説明できる。</p> <p>2 知的障害児教育の教育課程について理解し説明できる。</p> <p>3 知的障害児教育の指導方法を理解し、指導の実際について説明できる。</p>	△		○		△	△				
肢体不自由者教育論	肢体不自由特別支援学校の教育課程及び指導法	<p>1 肢体不自由者の教育の場について説明できる。</p> <p>2 肢体不自由者の様々な実態に応じた教育課程の編成について説明できる。</p> <p>3 個別の教育支援計画を生かした授業づくりについて理解し、説明することができる。</p>	△		○		△	△				
病弱者教育論	病弱児教育の理論と実際	<p>①特別支援教育に携わる上で必要な病弱教育、身体虚弱教育の基本的内容とその実際について説明できる。</p> <p>②病弱児への指導法、病弱児の自己管理支援について正しく理解し、学校教育における具体的場面での指導方法を記述することができるようになる。</p>	△		○		△	△				
聴覚障害者教育論	聴覚障害児教育の現状と指導法	<p>1. 我が国における聴覚障害教育の歴史的経緯について説明することができるようになる。</p> <p>2. 聴覚障害が言語獲得に及ぼす影響について説明することができるようになる。</p> <p>3. 聴覚障害児の指導に用いられる、多様なコミュニケーション手段それぞれの特性を説明することができるようになる。</p> <p>4. 指文字と、点字の読み、表現ができるようになる。</p>	△		○		△	△				
重複障害者教育総論	重度・重複障害児教育の理論と指導の実際、重度・重複障害児の行動理解	<p>1 障害の重い子どもとかかわるときに必要なとされる基本的知識について説明できる。</p> <p>2 障害の重い子どもとかかわるときのかかわり手のとるべき基本的態度について説明できる。</p> <p>3 障害の重い子どもの行動理解の方法について解説できる。</p>	△		△		△	△				
発達障害者教育総論	学校現場での発達障害児に対する特別支援教育	発達障害について、具体的に定義と特性について説明することができる。発達アセスメントの概要を知り、根拠を持った支援方法について具体的に考え述べることができる。	△		△		△	△				
視覚障害者教育総論	「視覚障害のある人たちへの教育はどのように取り組まれているのか」	視覚障害児の発達や心理的特性を把握するとともに、視覚障害者の教育・支援のあり方や盲児、弱視児に対する具体的な指導方法等の基礎的知識を獲得する。	△		△		△	△				
専門 発展 科	障害児の学習支援 通常級の学級に在籍する障害のある幼児児童生徒への学習支援	知的障害及び発達障害のある子どもにおける認知機能の特徴を理解し、子どもの認知特性に配慮した合理的配慮の提供の仕方を理解することができる。	△		◎	○		○	△	△		

